

総合資料館だより

2011.4.1 No.167

新資料館に向けて



府立総合資料館は、京都に関する歴史、文化、産業、生活等の諸資料を収集・整理・保存して、閲覧又は展示することにより、府民の調査研究等一般に供することを目的として、昭和38年に設置されました。

平成19年以降、施設の老朽化、総合資料館の機能や取り巻く環境の変化等を踏まえ、より一層府民の皆様のご期待に応えうる施設となるよう、館の果たすべき役割・機能のあり方を見据えながら、新たな施設整備に向けた検討を進めています。中でも、「京都に関する資料の収集・保存と積極的活用」、「公文書館機能の充実」、「研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化」及び「北山地域のなかの総合資料館」を重点検討事項として考えているところです。

施設整備に当たっては、北山文化環境ゾーンの一翼（文化、学術）を担う立場を明確にするとともに、北山ゾーン推進整備全体の観点から、府立大学等との連携を格段に強化することとしております。また、国内にとどまらず海外にも情報を発信し、京都の歴史・文化に関する全国的・国際的交流の拠点とすることを目指しています。

新資料館は、現在の場所から、京都市コンサートホールの南側に建設予定です。今後とも利用者の皆様にはよろしく当資料館をご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次	新資料館に向けて.....	1
	文献課の窓から「資料館で植物採集－旧分類の図書 又ター」.....	2
	歴史資料課の窓から「京都市域の景観変化～「京都市明細図」を読み解く～」.....	4
	最近の収集資料から（平成22年12月～23年2月）.....	5
	インターンシップ受入報告.....	7
	友の会事務局から 日誌 利用案内.....	8



国内最大の文化祭典
国民文化祭・京都2011
 平成23年10月29日㊦ー11月6日㊦
 京都市内全市町村で約70のフェスティバルを開催



PR隊長 まゆまる

詳しくはWebで 京都 2011

検索

帙を作り替える

すでに何回か紹介してきましたように、資料館には旧分類と呼んでいる図書があります。その大部分は、和紙を糸で袋とじにした和装本です。和装本は、現代主流の洋装本に比べると表紙も本紙も薄くコシがないので、洋装本のように本棚に立てて並べておくのは本来適切ではありません。旧分類図書には、書名などを横書きにした名札がついているものも多いので、かつては横積みになっていたことがうかがえます。

しかし、保管場所の節約のためには立てて並べざるを得ません。そんな場合には、厚紙などで本を補強する帙というカバーを作ります。旧分類の図書は、資料館に入る前、京都府立図書館時代のある時期に帙を作成し、立てる方式に変更されたものと思います。

ところが、「旧分類の和」に分類されている図書群の帙を中心に、酸性紙で作られているもの、構造上ふさわしくないもの、壊れかかっているものなどがたくさんありました。そこでこのたび、今後の保存や数年後の新館への引越しのことも考慮して、それらの帙を作り替える作業を行いました。作業に当たった職員の1年の長きにわたる根気よく丁寧な作業によって、6000点を超える帙を作り替えることができました(写真→)。



植物採集

日常では、今回の帙の作り替えのように、「旧分類の和」など、ある図書群全体にわたって目を通す機会はそう多くはありません。

旧分類は府立図書館から引き継いだものですが、不明なことも多く、古い帙についてもいつ誰が作ったのかわかりませんでした。今回の作業で、帙の作成時期など何か来歴の参考になることがわかるかと期待しましたが、残念ながら判明しませんでした(今回の帙には、後日のために作成日付を入れました)。なお、同じ旧分類でも「特」に分類されるものは、多くが布張りのいわゆる本帙に包まれています。これは、図書の価値の差から区別したものと思います。

さて、前置きが長くなりましたが、今回の帙の作り替え作業で図書を見ていくうちに、いくつかの図書に植物の葉がはさんであることに気

がつかしました。以前から、イチヨウの葉をはさんだ本が一、二あることには気づいていたのですが、今回はその数も増え、またイチヨウ以外の葉も見つかりました。

なぜイチヨウ？

なぜ、イチヨウの葉がはさんであるのか、はじめは単なる葉がわりかとも思いましたが、手近な辞典類で「イチヨウ」について調べると、イチヨウの葉は防虫効果があるといわれていることがわかりました。その後も、いくつかの植物図鑑などで、イチヨウが紙魚よけになるとの記述があることを見つけました。府立図書館の『図書館きょうと』39号(2002.9)でも触れられています。

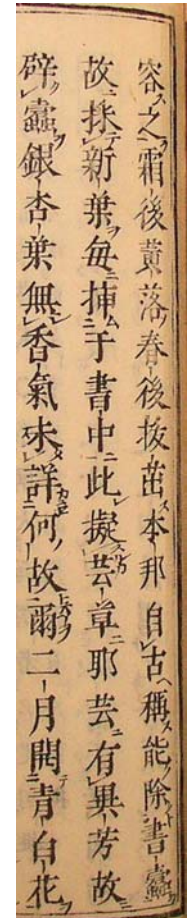
しかし、なぜイチヨウの葉が紙魚よけになるのか、また、いつごろからそのような使われ方をしたのでしょうか。

辞典類や堀輝三・堀志保美著『総覧・日本の巨樹イチヨウ』(内田老鶴圃 2005.12)などの参考文献を手がかりに古典籍を見ていくと、『和訓栞』という江戸時代後期～明治時代の辞書に、「書蠹を避くると新葉を書冊に挟むは何の故なるをしらず。芸草の異芳あるに似ず」と書かれていました。その元は『本朝食鑑』という元禄時代に出版された本のように、「銀杏」の項に、

本邦古へヨリヨク書蠹ヲ除クト称ス、ユエニ新葉ヲトリテツネニ書中ニ挿ム、コレ芸草ニ擬スルカ、芸ニ異芳有リ、ユエニ蠹ヲ辟ク、銀杏葉ハ香気ナシ、未ダ何故トイフヲ詳ニセズ

つまり、芸草という香りのある草に似せて虫よけとして本に挿むが、理由はわからないというのです(和324-8 写真右上)。ちなみに、「芸草」については、芸艸堂という出版社のホームページに写真が載っています。

インターネットでは、富山高等専門学校の金川欣二氏のページや、ことのは出版のオーディ



オブック紹介ページで、出久根達郎氏のエッセーの中にイチヨウと虫よけのことが書かれているという記事を見つけました。『本のお口よごしですが』（講談社 1991.7）の「書物保存法」には、こうあります。

本とイチヨウの相関関係について深く研究しはじめた。程なく、あっけなく氷解した。そうしなさいとすすめている書物を見つけたのである。書物保存法の通俗書で、虫よけにイチジク、イチヨウの葉を用いよ、とある。

同じく、「虫封じ」「だらすけ」の項では、明治後期にもイチヨウの葉を本にはさむ風習のあったこと、防虫効果は葉に含まれる成分ではなく、黄葉した色にあるのではないかとの推測が書かれていました。

江戸時代には効能の理由は不明とのことでしたが、近代科学の目ではどうでしょうか。確かな根拠を見つけることはできませんでしたが、ほかの図書館から貴重なご教示をいただきました。

府立医科大学の附属図書館からは、理系の論文を調査の上、「イチヨウの葉には防虫効果を有する成分（シキミ酸、 α -hexenal など）があり、それが本の紙魚よけに役立っていると言えるかもしれない」との情報をいただきました。この点、『週刊朝日百科世界の植物106』（p2517 西田誠執筆）では、イチヨウに含まれるピロボールやイチヨウ酸の効力としています。

『朝日百科』をご教示いただいた岐阜県の内藤記念くすり博物館図書館では、植物図鑑だけではなく、民俗学事典にもイチヨウの防虫効果に触れたものがあることをご指摘いただきました。

こうして、イチヨウの葉が紙魚よけになるという伝えは江戸時代からあったこと、防虫理由については諸説あることがわかりました。しかし、新たに疑問が増えました。

「書物保存法の通俗書」とは何か。イチジクも紙魚に効くのか。はさんだのは、生葉か、乾燥させた押し葉なのか。生葉なら、紙魚ならぬ染みが出るのではないかと気にかかります。事

実、右下の写真のように染みが出ているものがありますし、旧分類のなかにはれっきとした植物標本もある（『高山植物実物標本』特544-7）のですが、これも染みが出ています。また、緑の葉なのか、黄色く色づいた葉なのか。資料館の葉は写真のように褐色になっているので元の色はわかりませんが、『本朝食鑑』には新葉とあり、出久根氏は黄葉説のようです。

もちろん、最大の疑問は「本当に効くのか」ですが。

古典籍にも植物にも紙魚にも初学者の筆者には、この辺が限度でしょう。イチヨウと紙魚の関係など、研究者や古書店関係者など古典籍を見慣れた方々には常識かもしれませんが、しかし、筆者にとっては、開く度に何かが見つかる、たとえ読めなくても古典籍は発見の宝庫です。

今は昔

かつての資料館は、夏休みの終わり近くになると採集した植物の名前を調べにやってくる小学生でにぎわったそうです。今では、植物図鑑などは府立図書館に移してしまっただけで、そのような光景は見られなくなりました。ところが、思いもかけない形で、押し葉標本？にめぐり合えた1年でした。

電子書籍という言葉が流行し、古典籍のデジタル画像化なども盛んです。それらは、古典籍の利用に新しい境地を開くことは間違いありません。ただ、デジタル化される際には、銀杏の葉はごみとして取り除かれるでしょう。しかし、古人がイチヨウの葉に託した書物への思いは、現物を見てこそ感じられる、現物が持っているおもしろさはやはり現物に触れて味わえるものではないでしょうか。そんなことも思いながら、イチヨウの葉を戻しました。

どうかこの先も紙魚に食われませんように。

（文献課 西村 隆）

*実は、昆虫採集もできたのですが、これはあまりほめられた話ではないので、ここでは触れないでおきます。



▲ イチヨウの葉が2枚
『大功後編の旗颯』
特850-110



▲ 大きな葉、何の葉？
『歴史綱鑑補』
和916-4



▲ イチヨウの葉のシミも
『類題さやさや遺稿』
和831-132

京都市域の景観変化 ～「京都市明細図」を読み解く～

平成22年11月から公開を始めた「京都市明細図」は、テレビや新聞で大きく取り上げられたこともあって、研究者は元より、「自分（や親）の住んでいた地域の当時の様子を知りたい」という多くの方々にご利用いただいています。

この地図は、「大日本聯合火災保険協会」が昭和2（1927）年に作成したもので、その後、道路拡幅や土地区画整理事業等により、町並みが変わったところは何度か修正が行われ、昭和25年頃までの都市空間の変化を読み取ることができます。

京都市域は、明治元（1868）年、上京・下京の2区、18.39k㎡でしたが、平成21（2009）年には11区、827.90k㎡に拡大し、都市の様子も大きく変化しました。当館には、隣接市町村との合併で市域が拡大する経過や、道路等の都市基盤整備事業が京都府庁文書として保管されていますが、この明細図からもこうした都市空間の形成過程をうかがうことができます。

明治末年頃、京都市では三大事業（①第二琵琶湖疏水の建設、②上水道の整備、③道路の拡幅と電気鉄道の敷設）として都市整備を実施、烏丸通ほか6路線が拡張され、大正元年からは市営電気鉄道も一部運行を開始しました。

我が国において、都市計画法が施行されたのは大正9（1920）年1月ですが、京都市では「東京市区改正条例」が大正7年から準用されており、大正8年、市区改正計画として東山通や河原町通など市内15路線の新設拡張が決定され、都市計画法に受け継がれていきます。

この道路拡張計画を巡っては、河原町線の拡幅か、高瀬川を暗渠として木屋町通を拡張するか、市会や市民を巻き込んだ大論争が起こっています。京都府庁文書には、高瀬川の名勝指定に関する賛否双方の陳情が残されています。

（「神社什宝名勝旧跡寺院公図」（大正10-49））

また、河原町線と烏丸線を巡っては、工事の財源の一部となった受益者負担金制度について、負担金を賦課された住民がこれを不服として、知事への訴願（11件）や行政訴訟（4件）を提起しています（京都府庁文書「京都市都市計画

事業道路新設拡築工事費受益者負担金に対する訴願一件（大正14-23）」）。

こうした論争や財源不足もあって、計画通りの整備が進まない中で、道路と市街地を一体的に整備する手法として活用されたのが土地区画整理事業でした。昭和元（1926）年、南部を除く東大路、西大路、北大路、九条の外郭環状道路に沿った地域、約1450ヘクタールが強制力をもつ法第13条事業として認可されました。この第13条事業とは、事業認可後1年以内に施行に着手する者がいない場合に公共団体が代執行として実施するもので、西紫野など8地区が組合により、西第一など18地区が市の代執行により行われました。この第13条事業は、全国でも京都市のみで実施されました。また、北大路通の南北を含む市北部では、土地所有者らによる任意的区画整理も積極的に行われました。これらの事業により、急務とされた道路と郊外地の整備が進められ、今に続く市街地形成が図られました。

さて、この明細図で最も特徴的なことは、現在の五条通、堀川通、御池通の区域で、終戦直前に行われた建物疎開の様子を明快に読み取ることができることです。立ち退きにあった多くの民家部分が、彩色されずに白地のまま残され、道路が拡幅された様子が表されています。なお、建物疎開に関する京都府庁文書については、「総合資料館だよりN0165（2010.10.1）」に詳細に記載していますのでそちらをご覧ください。

ここでご紹介した京都市明細図は、当館の文書閲覧室で閲覧していただけます。

（歴史資料課行政文書担当 大橋 典子）



京都市明細図SE5（五条坂付近）

◇◇◇ 最近の収集資料から (平成22年12月～23年2月) ◇◇◇

◆図書資料

<京都>

報徳思想と近代京都 並松信久著 昭和堂
2010 7, 276, 10p

平城の北・恭仁宮 木津川流域の奈良時代 特別展 今造る久邇の都は 京都府立山城郷土資料館編 平城遷都1300年祭・第26回国民文化祭 木津川市実行委員会 2010 40p (展示図録31)

信長が見た戦国京都 城塞に囲まれた異貌の都 河内将芳著 洋泉社 2010 222p (歴史新書y 007) 寄贈

水が語る京の暮らし 伝説・名水・食の文化 鈴木康久著 白川書院 2010 208p

幕末・維新期の大山崎 第18回企画展 大山崎町歴史資料館[編]刊 2010 40p

ほんものの京都企業 なぜ何百年も愛され続けるのか 竹原義郎著 PHP研究所 2010 245p

京友禅「千總」 450年のブランド・イノベーション 長沢伸也・石川雅一著 同友館 2010 177p

鉄道～果てしなく続く路～ 平成22年度夏季特別展 京都-綾部間開通100周年記念 南丹市立文化博物館・南丹市日吉町郷土資料館編刊 2010 84p

京狩野の研究 脇坂淳著 中央公論美術出版 2010 6, 402p

地域資源「時代劇」で再生する「映画のまち太秦」～次世代に伝える地域の技術～事業報告書 京都・太秦時代劇再生協議会[編]刊 経済産業省近畿経済産業局 2010 3, 119p 寄贈

京都うた紀行 近現代の歌枕を訪ねて 永田和

宏・河野裕子著 京都新聞出版センター 2010 270p

<人文>

書誌年鑑 2010 中西裕編 日外アソシエーツ 紀伊國屋書店(発売) 2010 7, 483p

全国学校総覧 2011年版 全国学校データ研究所編 原書房 2010 1158p

全国公共図書館研究集会報告書 平成21年度 日本図書館協会公共図書館部会事務局編刊 2010 8, 17p

禿氏文庫本 大取一馬責任編集 思文閣出版 2010 4, 667p (龍谷大学善本叢書 29)

古記録による13世紀の天候記録 水越允治編 東京堂出版 2010 16, 528p

図書館の原則 図書館における知的自由マニュアル(第8版) 改訂3版 アメリカ図書館協会 知的自由部編 日本図書館協会 2010 20, 585p

皇室の文庫 書陵部の名品 宮内庁書陵部・宮内庁三の丸尚蔵館編 宮内庁 2010 79, 8p (三の丸尚蔵館特別展図録) 寄贈

国立国会図書館年報 平成21年度 国立国会図書館編刊 2010 15, 256p 寄贈

専門資料論 新訂版 三浦逸雄・野末俊比古共編著 日本図書館協会 2010 140p (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-8) 寄贈

天理図書館稀書目録 和漢書之部第4, 5 天理大学附属天理図書館編 天理大学出版部 1998, 2010 2冊 (天理図書館叢書 第43, 46 輯) 寄贈

唯識仏教辞典 横山紘一著 春秋社 2010

29, 1070p

西山浄土教の基盤と展開 五十嵐隆幸著 思文閣出版 2010 5, 228, 14p 寄贈

一休派の結衆と史的展開の研究 矢内一磨著 思文閣出版 2010 6, 349, 11p 寄贈

三角縁神獸鏡研究事典 下垣仁志著 吉川弘文館 2010 4, 554p

日本中世社会の形成と王権 上島享著 名古屋大学出版会 2010 14, 950, 31p

後鳥羽院政の展開と儀礼 谷昇著 思文閣出版 2010 5, 309, 11p 寄贈

戦国時代年表 後北条氏編 下山治久編 東京堂出版 2010 8, 486p

徳川幕臣人名辞典 竹内誠・深井雅海ほか編 東京堂出版 2010 4, 804p

近世初期上層公家の遊興空間 後藤久太郎編著・松井みき子著 中央公論美術出版 2010 353p 寄贈

茶譜 本文篇・図版篇 谷晃・矢ヶ崎善太郎校訂 思文閣出版 2010 2冊

本阿弥光悦 人と芸術 増田孝著 東京堂出版 2010 344p

近世芸能の胎動 山路興造著 八木書店 2010 5, 417p

リュリシーズ 鈴木龍一郎写真集 鈴木龍一郎著 平凡社 2009 106p

彫刻家エル・アナツイのアフリカ エル・アナツイ作 読売新聞社・美術館連絡協議会 2010 233p 寄贈

万葉に遊ぶ 上村松篁の描いた万葉世界を中心に 上村松篁画 松伯美術館編刊 2010 159p 寄贈

国宝源氏物語絵巻 五島美術館編刊 2010 241, 7p (五島美術館展覧会図録133) 寄贈

ヘンリー・ムア 生命(いのち)のかたち ヘンリー・ムア画 石橋財団ブリヂストン美術館編刊 2010 89p 寄贈

<官庁>

雨量年表 第53回(平成17年) 国土交通省河川局編 日本河川協会 2010 318p

流量年表 第58回(平成17年) 国土交通省河川局編 日本河川協会 2010 452p

日本の大気汚染状況 平成21年版 環境省水・大気環境局編 経済産業調査会 2010 736p

京都府農事統計書 昭和14年 京都府農會[編]刊 1939 31p

国民文化祭京都2011 こころを整える～文化発心 プレガイドbook 第26回国民文化祭京都府実行委員会[編]刊 [2010] 52p

京都府立丹波自然運動公園開園40周年記念誌 京都府立丹波自然運動公園協力会編刊 2010 28p

京都市の住民基本台帳人口 公称町別世帯数及び男女別人口並びに元学区別年齢5歳階級別男女別人口 平成22年版 京都市総合企画局情報化推進室情報統計担当編刊 2010 100p 寄贈

きょういのちほっとプラン 京都市自殺総合対策推進計画 京都市こころの健康増進センター[編]刊 2010 57p 寄贈

水防計画 平成22年度 淀川・木津川水防事務組合[編]刊 [2010] 142p 寄贈

久御山町の教育 平成22年度 久御山町教育委員会[編]刊 2010 107p 寄贈

亀岡市の水道 平成21年度 亀岡市上下水道部編刊 2010 70p 寄贈

■文書資料（新しく公開する資料）

洛中洛外御巡見場所留書 若年寄稻垣対馬守が洛中洛外の寺社等を巡見した時の記録。日付毎に巡見箇所の概略(石高、創建由緒、建物、造営・修復記録等)を簡条書きにしてある。元禄16(1703)年3月8日～20日。1点。

室町頭南半町文書 室町頭南半町の年寄高木惣七が京都の町文書として古くから秘蔵されていた文書を写したものの。元亀元(1570)年織田信長の朱印状ほか、戦国期から江戸初期迄の権力者から町に出された朱印状等の写である。明治5(1872)年。1点。

京都堅木地職仲ヶ間定書 洛中洛外・近江・丹波の木地師仲ヶ間の定書。天保2(1831)年。1点。

陵所絵図 御陵について江戸時代に描かれた絵図。御陵調査と修復は幕末の文久年間から本格的になるが、この資料はそれに先立つ陵墓の情報まとめられたもの。天保7(1836)年写。1点。

運送問屋仲ヶ間名前帳 高瀬川運送を中心とした運送問屋仲ヶ間の定書と名前帳。変更などについて訂正・追記されている。文化9(1812)年～万延元(1860)年。1点。

船井桑田両郡弓者御名前帳 丹波国船井郡・桑

田郡の郷士格として苗字帯刀を許されてきた弓者連中の名前書。村毎に人名が記され一部に注記がある。寛政3(1791)年。1点。

六方年行事関係資料 京都の犯罪人の縄取り、牢屋敷詰めなどを担当する年行事および給銀等の経費を負担する町(年行事町)からの願書の一件。文久4年(1864)～慶応元(1865)年。6点。

六方年行事諸事留 京都の犯罪人の縄取り、牢屋敷詰めなどを担当する年行事および給銀等の経費を負担する町(年行事町)からの願書等を写してまとめたもの。慶応元(1865)年。1点。

園部落土岩内家文書 園部落土で坊主方・御徒・物書等を勤めた岩内家の文書。園部落における岩内家代々の勤書がまとめられ、藩での職務の様子を知ることができる。また物書を職務としていた関係から幕末から廃藩に至る事務をまとめた覚書が含まれる。幕末から明治初期。13点。

中台村文書 江戸時代中期から明治初めまでの京都府京丹波町中台地区(旧瑞穂町)の村文書。江戸時代の中台村は綾部落・園部落・旗本柴田七九郎の所領に3分割されており、その三方で取り決めしながら村運営をしていることが分かる。借金証文・年貢勘定・定書・口上書ほか。宝永6年(1709)～明治12年(1879)。153点。

インターンシップ受入報告

総合資料館では、平成20年度から立命館大学文学部のインターンシップの受け入れを始めました。

職場体験としては、これまでから、司書を目指す学生の実習を文献課で受け入れていました。



昨年度は、同志社大学文学部、龍谷大学文学部、同志社女子大学文学部それぞれ2名の学生が夏季に図書館実習を行いました。

これに対して、20年度新たに立命館大学文学部から申し出のあったインターンシップの対象となる学生は、司書課程を履修する学生に限られないので、目録やレファレンスなど図書館に対する基礎知識を持っている訳ではありませんでした。さらに、単なる職場「体験」に終わらず、実習の成果が学生のその後の学習につながり、また、それを具体的な形として表現できるものを希望されていました。

そこで、資料館の業務を体験させると共に、

資料館としても以前からやってみたかった「古典籍に含まれる画像を検索するデータベースの作成試行」を中心とした実習メニューを新たに組み立てました。

おもな実習

内容は、『都名所図会』など江戸時代の京都案内を素材に、その画像



を撮影し画像中に描かれているものの名前をデータベースに登録するというものです。このデータベースによって、たとえば、「大文字」と入力すると『都名所図会』などに描かれた大文字の絵が検索できるというわけです。2年目からは、寺子屋講座で試しにお披露目したときの声を受けて、図会に描かれた場所の現代の写真撮影とその入力も加えました。さらに、年度によっては、文献課のカウンター業務や目録作成、和装本や帙の作成などの体験を追加しています。もちろん文献課だけではなく、歴史資料課の持つ古文書や行政文書を実見する機会も設けています。

この実習によって、学生に対しては、①古典籍の実物に触れること②データベース化作業を体験し、実務の一端に触れること③江戸時代の京都の様子を視覚的に捉えること④展示やリーフレットの作成などによって成果をまとめた形で表現すること⑤自己の研究テーマの参考としたり、調査の仕方の一端を学ぶこと、などの効果を狙いました。また、資料館にとっても、①本データベースへの継続的なデータ蓄積により、レファレンス回答や展示などの調査ツールを作成できること②学生のアイディアや感性から新たな刺激を受けること、などを期待しました。



受講生は、本インターンシップを担当される三枝暁子准教授の指導の下、夏季6日間の資料館での実習を中心に、事前・事後学習、レポート、さらには、成果報告リーフレットの作成、成果報告展示、寺子屋講座の補助と講座参加者へのデータベースの紹介など、単に資料館という職場を体験する以上の、幅広く長期にわたる「インターンシップ」に大変まじめに熱心に取り組みました。

受講生は、本インターンシップを担当される三枝暁子准教授の指導の下、夏季6日間の資料館での実習を中心に、事前・事後学習、レポート、さらには、成果報告リーフレットの作成、成果報告展示、寺子屋講座の補助と講座参加者へのデータベースの紹介など、単に資料館という職場を体験する以上の、幅広く長期にわたる「インターンシップ」に大変まじめに熱心に取り組みました。

このような形で3年間実施してきましたが、データベース作成に使用したソフトウェアの操作ができる職員が少ないこと、諸行事の多い夏季には指導体制が限られることが大きな課題といえます。

こうした中ですので、受講生には、資料館のような、記録資料を保存・継承・提供することを主たる業務とする職場があることを知ってもらえば十分であると思います。そして、少しでも「おもしろかった」という感想を持って帰ってもらえば上出来です。

資料館としても、日ごろは気がつきにくかったことを学生から逆に教えられることがあります。その一つとして、最後に、受講生の感想を原文のまま引用して結びとします。

「実習の中で、資料館の方々楽しそうに働いていらっしゃることも心に残りました。職員の皆さんが資料館のお仕事に誇りを持っていらっしゃる事が伝わってきて、自分も将来このように気持ちよく働ける仕事をしていきたいと思いました。」

(文献課 西村 隆)

友の会事務局から

平成23年度の友の会は、3月14日現在210人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、資料館だよりをお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

*主な活動(予定)

- ・見学会(年1回秋頃、要参加費)
- ・現地講座(年1回春頃、要参加費)
- ・「総合資料館だより」の配布(年4回)
- ・資料館主催展覧会の会員向け展示解説
- ・京都文化博物館、池大雅美術館の入場料割引
- ・総合資料館府民講座の開催(資料館と共催)

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成22年12月～23年2月)

12. 1(水)、2(木) 古文書入門教室
(11.30から)
2. 26(土)～ 収蔵品展(3.27まで)

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

〔4月～6月の休館日〕

- 4月13日(水)、29日(金・祝)
- 5月3日(火・祝)～5日(木・祝)、
11日(水)
- 6月8日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ㊤⑧ 北山駅前下車
京都バス ㊤ ㊦ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています